

平成 21 年 11 月 20 日

次世代スパコン開発事業の「凍結」を憂慮する

東京大学生産技術研究所

革新的シミュレーション研究センター

11月13日に実施された行政刷新会議の事業仕分け作業において、国家基幹技術として最重要戦略の一つに位置づけられている次世代スーパーコンピュータ開発プロジェクトに対し「凍結」の判定が下された。次世代スパコンならびにその性能を最大限に発揮できるソフトウェアの早期実現は、地球規模の課題などにおいて今後我が国が国際的リーダーシップを発揮する上で必要不可欠の手段であり、開発・戦力化に対して一刻の猶予も許されない。このような状況における今回の判定を深く憂慮するものである。

最先端スパコンの実現は、広範の分野にわたる技術が結集されることによって可能になるものであり、言わば、我が国の科学技術力・ものづくり力の指標になるものである。従って、世界トップクラスのスパコンの開発は、単なるコンピュータとしての評価のみならず、我が国ものづくり産業全体のレベルを世界にアピールする手段でもあり、国際競争力の維持・発展に重大な影響を及ぼす。我が国は、極めて高品質の製品を世界に送り出すことによって高い評価を受けて来ていることは周知であり、その蓄積されたものづくり力と最先端の研究成果を融合した信頼性の高い世界トップの高機能スパコン実現への挑戦は、科学技術立国・ものづくり立国の堅持・発展に不可欠の手段である。

他方、次世代スパコン開発事業は、単なるハードウェアの開発のみならず、その機能を最大限に活用できる先端的ソフトウェアの開発とのワンパッケージである点が重要な戦略になっている。我が国において利用されている計算科学ソフトウェアは欧米製に席卷されており、このままでは特に得意とするものづくり分野においてもその根幹である設計プロセスが欧米製ソフトによって左右されかねない事態に陥る危惧がある。このような事態を打開するために、東京大学生産技術研究所 革新的シミュレーション研究センターは他の研究機関と連携して、次世代スパコンの能力を最大限に発揮できる超並列対応ソフトウェアの開発を世界に先駆けて実施中であり、これを駆使した次世代設計システムの実現にメドをつけた段階にある。我が国の実情に合致した国産の先端的ソフトウェアが今後戦力になるかどうかはここ数年の努力にかかっており、正にラストチャンスと言っても過言ではない。ここで開発を加速できれば我が国ものづくりが将来世界をリードするための重要な役割を担う基盤が出来上がることになる。

次世代スーパーコンピュータ開発プロジェクトは我が国の将来に極めて重要な役割を果たすことが再認識されるとともに、本事業が加速されることを強く望むものである。